

いま、世界で最もアツイ！

魔都上海の上層階

躍進と混沌…「ルネサンス」を果たしたこの「自由王國」は

'92年、鄧小平によって改革開放された中国。なかでも「經濟特区」上海は、どこまで成長するのか。古くからの上海人は「元に戻っただけ」というその活気に、ニッポンは完全に置き去りにされてしまった。新型肺炎・SARS禍で足止めを食った読者のためにも未知の「素顔」に迫る。

FLASH・URBAN-STREET・SPECIAL

往街道裏

写真◎伊藤隼也
コーディネーション・史豊
南寧路にあるショッピングモール「ラザーブラック」店舗。非日常が軒を連ねる光景は、中國・上海の變かざの象徴。

出稼ギー日富 夢追い人の光と影が錯綜する今

上海駅。故郷・杭州に一時帰る出稼き労働者。いくつもある荷物の中には電気ポット、炊飯器などの電化製品もある。



日本が景気の低迷に喘いでいるなか、まるで、それをあざ笑うように上海は活気づいていた。極度に平等化された日本人の目に映る上海のコンラストは、驚異と脅威。そして、かつての日本を彷彿とさせるかもしれない。そんな、上海の現実を体现した人に出会うことができた。妻、秋麟さん(39)。「ここ10年で上海市は一億四千万平方㍍に及ぶ宅地を供給したんです。そして、2千両万平方㍍の老朽住宅を取り壊すことにより、40万人近くの市民が転居してきた。上海のマンションは内装や空調が施されていない状態で建設される。つまり、内装は客がその嗜好に合わせて業者に発注して決めることはありませんよ(笑)。こんな、ビジネスチャンスを黙つて見てる手はないでしょう」と妻さん。昨年の年商は一千50万元(約2億5千万円)。今年はこれを上回ると予測する。

「上海に地価バブルはありません。なぜなら、土地は国のもとであり、マンションの場合、デベロッパーが一括購入するので地代は発生しない。もつともわずかですが固定資産税はあります」(妻さん)

一方、都市建設とともに、上海に流入する出稼き労働者の数は30万人といわれている。市場経済の導入で国有企業の縮小や農村部との貧富の格差が浮き彫りにされているのも実情である。「あと5年もすればホームレスが急増するでしょうね」。ある上海人が言った一言が耳に残った。



マンション建設が進む浦東新区。約8千人の出稼き労働者が働いている

高層マンションの下にある古い商店街。1ヶ月後には壊されるかもしれない。このコントラストが上海の今だ



建設中のマンション現場で追々を出す姿。客のオーダーしとおりの仕事をしないと、毎月に雇用をなくすという

魔都・上海の表裏街道を往く



既視的光景!? 活力が街中に噴出する



30年商2億円、100平米マンション…
30代起業家のフツーな成功物語



「今は忘れない」抑圧の“過去”。生き証人が語る復興以前とは…

Past Days

朱さんが上海に来たのは1945年、20歳のときだった。生まれ故郷の南京で、銀行員をしていた彼に、台湾資本の企業から会計主任としてせひ迎えたいとの誘いがあったからである。1945年といえば、37年に勃発した日中戦争が終結、国民党と共産党の内戦が再び始まった年である。しかし、朱さんは迷うことなく上海に向かった。「当時、上海は人口300万人の都市でした。街は内戦で混亂していましたが、そう長くは続かないと思っていたからです。結果は共産党の勝利に終わり1949年、毛沢東は中華人民共和国を建国する。「会社は潰れましたが、交通部財務局上海事務所に勤めました。みな国のアパートに住んで、楽しみといえば家族団欒の食事でしたね」。文革の話を尋ねると一瞬、顔を曇らせ「あの時代はよくなかった。毛沢東は神様ではないんです。でも、私の思ったとおり上海は発展したでしょう」と最後は笑顔で答えてくれた。

朱錦江さん
しゆきこうさん



程さんが青春を過ごした時代、中国は国民党と共産党が内戦を繰り広げた時期でもあった。中学卒業後、この内戦から逃れるために上海に来たという程さん。「上海は中国といっても外国人が多い特殊な街でしたから、壊滅的な打撃はないだろうと思ってね。多くの人民が上海に流れ込んだんです」。その後、

上海市役所役員の運転手を務めた。「1930年代の上海は売春婦も大勢いてね、当時、普通の労働者の給料は10元ほどでしたが、私は30元もらっていました。租界やホテルにいた売春婦たちは、私の3倍ぐらい稼いでいたね(笑)。ギャンブルも平気だったので、有名なホテルでは徹夜で麻雀をしている金持ちや、特権階級である一部の官僚の姿も見かけました。市長の車も運転していましたからね(笑)。私も遊んだかって? とうてい庶民には手の届かないものでしたよ」。

1966年、文化大革命が始まると多くの役人とともに職を失った。「最悪の時代でした。今はもう忘れない。それだけです」。

キヨタハ影撮體全站總應供西滬令司空防海上



1956年、次男誕生の祝いに記念写真。この次男は現在日本人と結婚し東京で暮らしている



上海市役所で運転手をしていたころ。上段、中央が程さん

フードン

歴史の爪痕が癒やされぬままにスラム化した上海の胡同(横丁)

古くから続く商店街から横丁に一歩足を踏み入れると、息づく庶民の暮らしがあった。高層マンションではけっして見られない風景である



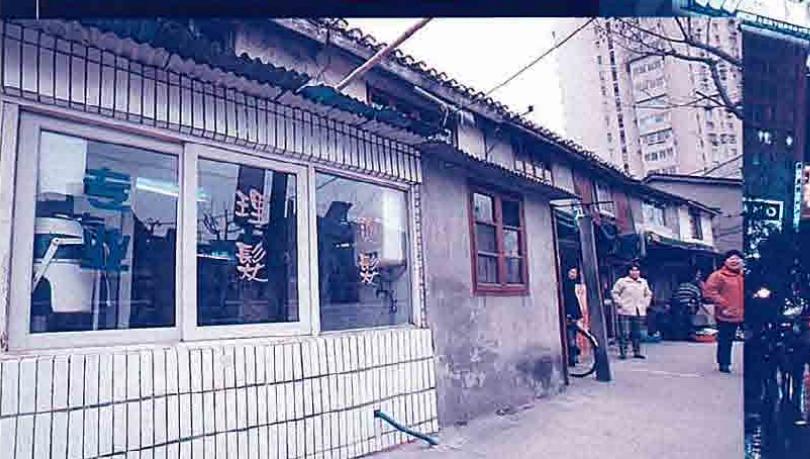
Dark Side

潜入！

海外ビジネスマン向け裏風俗への誘い

いざな

魔都・上海の裏表街道を往く



路地裏にある「洗髪屋」。風俗店ではあるが、多くの店員は地元民、韓国人の「床屋」を想像してもらえばいい。



上海の風俗は日本のように多種多様ではない。

代表的なのがKTVと呼ばれるカラオケ店。待

合室で待つこと5分。ママらしき女性が現われ

部屋に案内された。すぐに女の口が数人やつて

来て、ママらしき女性が個室に自配させる。どうやらタ

イブの女の口を指名するシステムらしい。「いら

つしゃいませ」。女の口は席に着くとさっそく、

体を寄せてきた。が日本語はここまで。大半の

女性は上海語か北京語しか話せない。衬衫と田

本語の歌がうまいのには驚かされた。料金は何

時間いても一人200元(約3千円)だが、女の口にチ

ップとして100元から200元を支払わなくてはいけ

ない。数本までならビールは無料。他のアルコ

ール類は40元ぐらいたる。女の口に出身地

を尋ねると、みな大連だという。専門のフロー

カーがいるのだろう。気をつけることは、いく

ら自由主義の雰囲気でも、体制は社会主義。警

察の手入れがあれば、5千元(約7万5千円)の罰

金とパスポートに烙印を押されるはめになる。



3倍
大連から来たというやき庵西月収生均的労働者の約
千300元(約2万円)のアパートで共同生活している



上海にも専門の女性がいることは確か。ただし、あくまでも社会主義体制であることをお忘れなく。





「仰け! 世界最高速アーチを体感した



音もなく発車したかと思ったら、車体が浮いている感覚を覚え加速する。約3分後、社内のデジタル速度計が最高速度430km/hを示した瞬間、満席の乗客からどよめきと拍手が沸き起こった。浦東国際空港と龍陽路駅間30kmをわずか8分で結ぶ世界最初の「磁浮列車」(リニアモーターカー)は今年、10月からの正式営業を目指し、最終的な実験段階に入った。ドイツ「シーメンス社」が技術を提供、10億ドルの予算のうち大半を負担した。定員200人。料金は往復普通席が150元(約2千250円)、グリーン席は300元(約4千500円)。現在、土日だけ1日15本運転されている。

たルネッサンス

東海大学助教授
葉 千栄氏

現在の上海が映し出している光景は、一種の上海ルネサンスです。一見、一夜にして誕生したかに見えますが、実際は1930年代・40年代の栄光と美意識の再発掘なのです。人気の新天地や旧フランス租界周辺のバー・クラブはその象徴で、30年代の屋敷を生かし、アンティークの薫り漂う、粹でモダンなスペースを作り上げています。そもそも上海は一千年前位で歴史を語れる北京や西安とは対照的な、歴史の浅い街。アヘン戦争以降、欧米人、日本人など外国人の到来によってできたアーチ

もが、チャンスを狙っている、これも30年代と同じ現象。上海は、再び上海ドリームが成立する街になったのです。上海の大学生は、キャンパスで彼女に「僕は、卒業して10年で、夜景を一望する超豪華マンションを買ってベンツを君にプレゼントするよ」と約束する。同じ約束を、今の日本の大学生が言ったとしたら、相手の女性は「この男、絶対、嘘つきだわ」と思うでしょう。これが年功序列の日本との違いで、上海が躍動する根底です。政治的には、多少希薄な面があつても、ライフスタイル



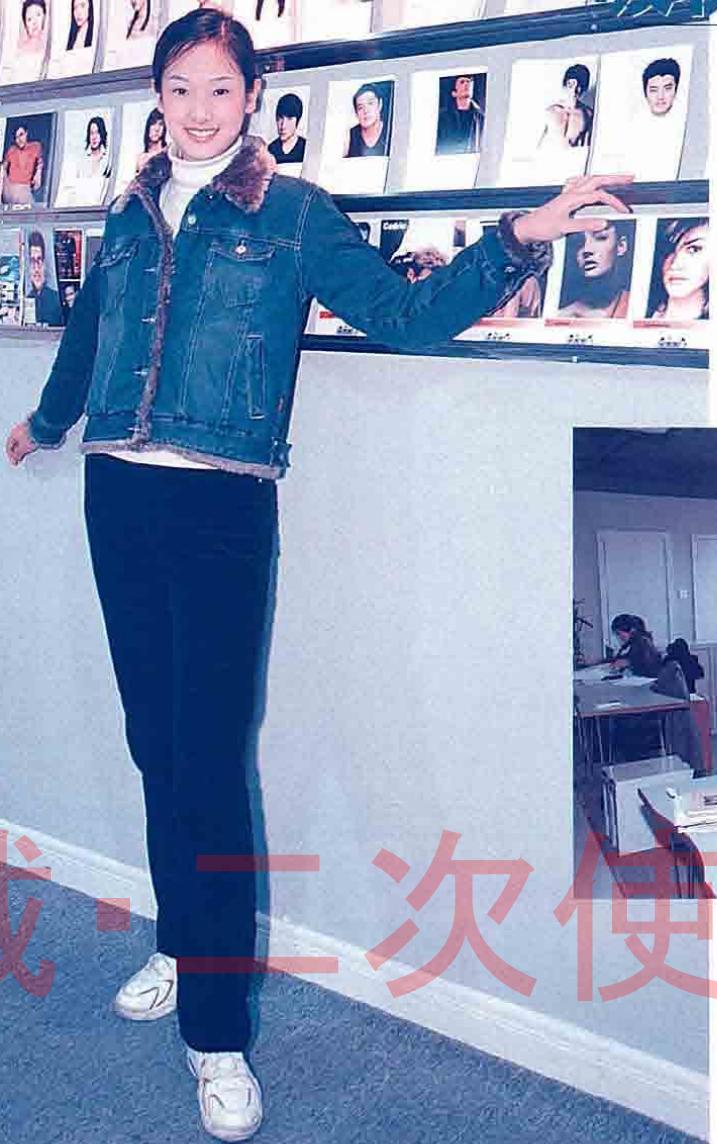
工場から市場へ…日本企業進出の「余地」は?

浦東新区にあるトヨタのディーラー。昨年トヨタは大連に中国との合弁会社を設立、中国国内における生産と販売に踏み切った。圧倒的にドイツ車が占める上海では日本車の進出は困難だという。もはや、中国は単なる工場ではなく、中国市場の開拓こそが今後の日本企業にとって大きな課題となるだろう。ちなみに写真の「VIOS」は15万5千元(約232万円)から販売されていた。平均年収が5万元の上海市民にはまだ高嶺の花だ。

魔都・上海の表裏街道を往く 吸収・膨張する“未

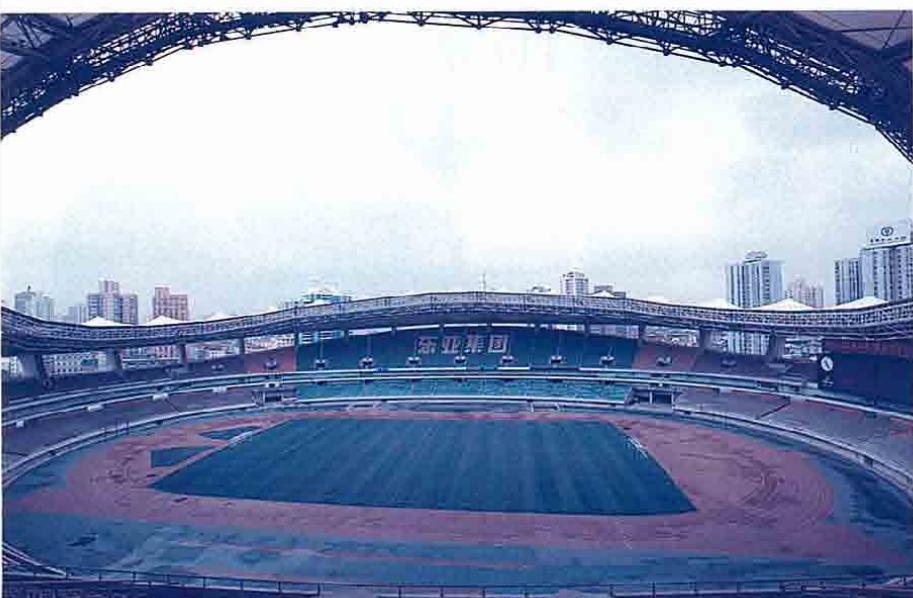
ファッション界をもアツくリード

「リキッド」——40名ほどのファッションモデルを抱える上海の大手芸能事務所。創業は'97年。モデルの手配だけではなく、ショーの演出、PRもこなす。「広告、雑誌、ファッションショーの仕事が多いですね。'08年の北京オリンピックや'10年の上海万博のころには大変な騒ぎよ」とはマネージャーの周暢さん。新人モデルのルールークン(写真、17歳T177/B82W61H88)はハルビン出身で半年前、上海に来た。「きっかけはCCTV(中国放送)のオーディションで4位になったこと。本当は中国舞踊家を目指していたけど、身長が高すぎてね。それでモデルになったの」。トップモデルともなると海外の仕事も増え年収100万元(約1千500万円)にも…。



車云載 - 一次使田空

8万人を収容できる中国最大のスタジアム「上海体育場」。'97年10月に完成した。敷地面積1.4万平方m。建設費は15億元(約225億円)。主にスポーツやコンサートに使用され、サッカーの場合、入場料は席により20元(約300円)から100元(約1500円)。2008年の北京オリンピックではサッカーフィールドとなる。SARS騒ぎで中止になったが、ローリング・ストーンズのコンサートもここでおこなう予定だった。



8万人収容の25億円スタジアム

ジア最大の多国籍混成都市です。当時、デパート、銀行、カフェ、どれもアジア最大を誇っていました。そして、社会主義統制経済時代にこの街から消えていた記憶が、今日、一気に蘇ったのです。中国全土にとって初めての経験である市場経済も、上海にとっては復活です。中国は現在、脚力国と外交関係を持っていますが、上海に住む外国人は約2万人、その数は首都北京を大きく上回ります。ビジネスマンや留学生だけでなく、ミュージシャンからバーテンダーまで、一種の国際フリーターたち

流行対応型“DNA”がもたらし

ルを追求し、洋の東西を問わず、流行は即座に吸収する。これが、上海人が持つて生まれた価値観、DNAなんです。しかし、この上海ルネサンスがもたらした光景が中国全土に広がるのか。答えはノーです。紫禁城や兵馬俑を持つ歴史ある古都を、わずか20年の歴史しかない、常に最新を追いかけの街に似せる必要はないでしょう。一方、上海も内陸の文化から何かを掘り出して今世紀に生き残ることは考えていません。上海のパワーはあくまでも、ライフル、経済パワーなのです。